

## 本時のねらい

データを見取り、数値から読みとれる情報を考察することで、問題解決能力や情報処理能力を伸ばす。

## 本時における 1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ジャムボードで付箋の色を変えて意見を入力することで、グループ活動の評価がしやすい。
- ・出た意見をグループ化しながらデータから読み取れる情報をまとめることができる。

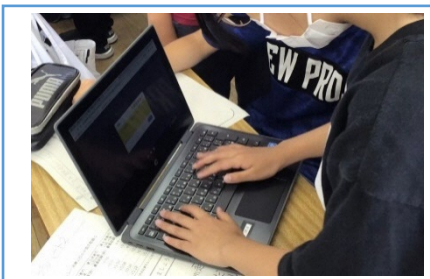
## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ミライシード（ムーブノート）
- ・ジャムボード
- ・電子黒板

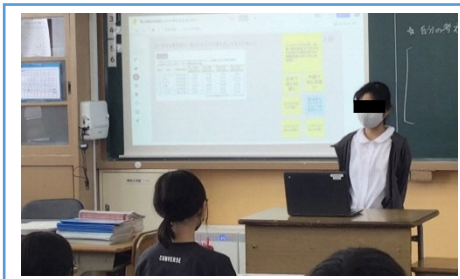
## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○データ3から、リレー選手個々の100mの記録と、決勝記録の関係から気づいたことをワークシート(紙)に書く。 ・選手個人の100m走の記録と、4人でのリレーの記録を比較し、わかったこと、疑問に思うことをまとめていく。	
展開 (25分)	○疑問に思ったことを書いたワークシートをグループで共有し、グループの意見をまとめる。 ・ジャムボードでグループの意見をまとめる。【写真1】 ○グループごとに考えを発表し、意見を交流する。 ・ジャマイカが個人の記録もリレーの記録も一番早い。 ・すべての国がリレー選手4人の個々のシーズン最高記録を足した値より、決勝の記録の方が早い。 ・日本は最高記録が遅いのに2位になっている。【写真2】	・ジャムボードを用いて、同じ考えや違う考え、疑問などをグループ化することで素早く意見をまとめることができる。 ・付箋の色を変えることでいろいろな人が出した意見だということがわかりやすい。 ・他者の考えを参考にすることで、自分の考えを明確にすることができる。
まとめ (10分)	○話し合いを振り返り、ムーブノートにまとめる。 ・今日の学習でどんなことがわかったか振り返る。 ・本時でわかったこと、疑問に思ったことを確認し、どのようにして、タイムが短縮されているのか、なぜ日本のリレーチームが銀メダルをとれたのかをまとめる。【写真3】	・友だちの意見をムーブノートで確認することで、自分の考えをより深められるようにする。 ・Chromebookを活用して、まとめ、保存することで本時のふりかえりをすぐに確認できる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】ジャムボードを使って考えをまとめている場面



【写真2】電子黒板を使って考えを発表している場面



【写真3】全員のふり返りを「ひろば」で共有している場面

## 児童生徒の反応や変容

- ・ジャムボードでまとめることで意見を見やすくまとめ、発表を聞くことで、自分のグループではでなかった、『どうして日本が銀メダルが取れたのか』という気づき生まれた。
- ・友だちや他班のふり返りを共有することで、自分と同じ考えや違う考えに共感し、さらに数値に着目し、データから読み取れる情報の面白さに気づいた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ジャムボードは電子黒板を用いて共有しているので、各班ごとの提示になるため、班同士の共有が難しかった。ムーブノートではそれぞれの考え方を「ひろば」に送り、全員で共有することで、すべての国が個々の最高記録よりも決勝の記録が早い等の発想が生まれた。